



インテリアデザイン研究室

Interior Design Lab.

大石 容一

OISHI, Yoichi / Professor

新たな日本の観光を生み出す船水族館

A ship aquarium that creates new tourism in Japan

移動式の船水族館を見たことはありませんか。豪華客船には、小さな遊園地やプールがついているものが多いが、水族館がついた船はない。そこで私は、新たな観光コンテンツとして船水族館を提案する。

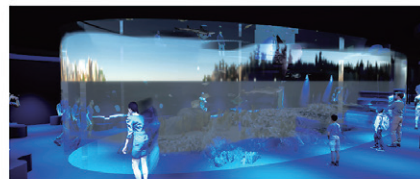
この船は、単なる移動手段ではなく、観光の一部として利用してもらうことが目的である。船内には、水族館以外に水槽を眺めながら食事をする事が出来るレストランや水族館の一部にカフェを設け、退屈することのない空間を創り出している。

現在の観光の移動中の過ごし方は、睡眠やスマホ、パソコンなどを使用して過ごすことが多いが、この船では、その時間を無駄にすることなく移動ができ、この体験が旅行の思い出の一つに加わると考えている。



井上 巧

INOUE, Takumi



ガストロノミー神戸 神戸ワインと神戸ブランドを味わう

Gastronomy KOBE: To taste Kobe wine and brands



神戸で採れたブドウから造られ、純国産の日本ワインとして製造されている神戸ワイン。その歴史は、およそ40年前に神戸牛に最も合うワインを目指して始まる。当初は土壌が安定しておらず、あまり評価されていなかったものの、現在はいくつもの受賞歴持つ美味しいワインである。

今回は、神戸ワイナリーの更なる発展のために、“ガストロノミー”をキーワードに提案を行う。ガストロノミーとは、食事を通じてその背景やあらゆる文化を考える学問のことを言う。滞在者がワイン作りに関わる仕掛けを少しずつ散りばめることで、人々が共感し語りたくなる食体験を目指す。



枝光 隼佑

EDAMITSU, Shunsuke



ドーム球場の新たな可能性 京セラドーム外周をパブリックビューイングの聖地に

New possibilities for a dome stadium: The surrounding area of Kyocera Dome as a sanctuary for public viewing

私の趣味は野球観戦であり、好きが高じて2年間京セラドーム内でアルバイトをした。

2023年はスポーツの一年と言ってもいいほど日本中がスポーツに沸いた。野球やバスケットボール、サッカー、バレーボールにラグビーと様々なスポーツ選手が活躍する姿に熱狂し、楽しんだことでしょう。

京セラドームでは日々様々なイベントが開催されている。そのイベントはどれも心躍るワクワクするものばかりだ。その賑やかなドーム内の熱気をもっとドーム外周にまで溢れ出せればと考え、スポーツの楽しさを共有できるよう、ここをパブリックビューイングの聖地にする計画を提案する。

この場所で多くの人が巨大なスクリーンを通して熱狂し、感動し、盛り上げられる空間になることを期待する。



審査会賞
(インテリア部門 第3位)

奥村 日咲
OKUMURA, Hisa

ブランドイメージを応用したジェネラティブ空間デザインとそのプロセス 大阪マルビル跡地にスーパーブランドを集結

Generative space design and process with application of brand image: Super brands gathered at the former site of Osaka Maru Building



1976年大阪の高層ビルの先駆けとして誕生した大阪マルビルは梅田の発展の象徴であった。老朽化による建替えに際し、新たな大阪の都市文化創造の発信基地として4つのハイブランドが入る“Stone wedge”を計画した。

建物の外観は複雑なガラスパターンの膜で覆われ、中心には心柱が貫き、その柱を取り囲むように構成された4店舗のフロアが絡み合い配置されている。

制作プロセスは、先ずブランドイメージから文章生成AIでキーワードを抽出し、それを元に画像生成AIによってブランドイメージにマッチした無数のアイデアパターンを作り出す。その中から最適なパターンを選択し、実際の空間デザインに落とし込むことで、ブランドの世界観を感じられる空間を創出する。

生成AIによってデザインイメージを増幅させ、それらのイメージをRhinocerosやgrasshopperを用いてインテリアを数学的に表現するプロセスを模索した。

審査会賞
(インテリア部門 第1位)

勝田 壮

KATSUDA, Soushi



新十三ミュージック

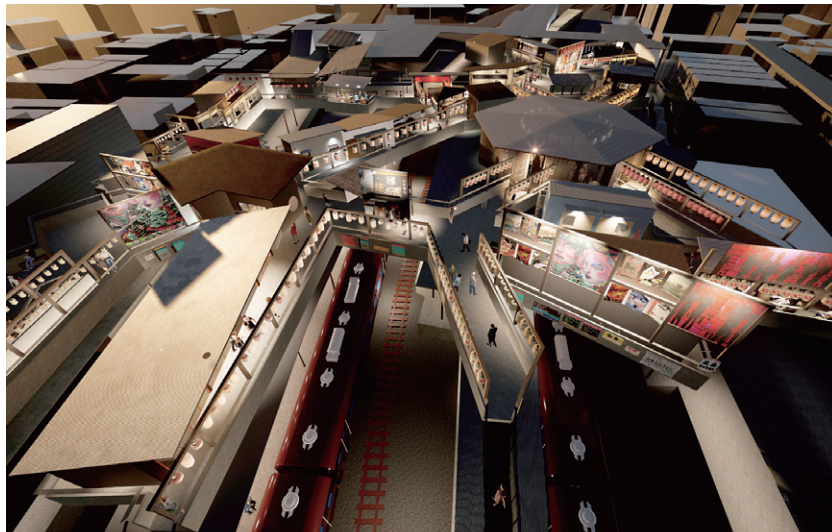
New Juso music

大阪梅田駅から淀川を渡り、神戸、宝塚、京都の三方向に分かれる分岐点となるターミナル、阪急十三駅。大学四年間の一人暮らしをこの十三という場所で過ごし、この町の面白さに気付いたことが「新十三ミュージック」というコンセプトの原点である。

かつてこの町を彩った「十三ミュージック」というストリップ劇場があった。

それを新たにホーム上に歓楽街を設け、地元民、乗り換えで十三を利用する人、仕事帰りのサラリーマン、様々な人が気軽に楽しめる場所、「新十三ミュージック」という形で復活させることを提案する。

十三をより魅力的なエンターテインメントとコミュニティ形成の発信源となることをめざす。



審査会賞
(インテリア部門 第2位)

鈴木 麻友
SUZUKI, Mayu



宝塚歌劇の魅力を伝える華やかな売場づくり ソリオ宝塚グランドフロアのリニューアルプラン

Creating a gorgeous sales floor that conveys the charm of Takarazuka Revue: A renewal plan for the ground floor of Solio Takarazuka



阪急宝塚駅直結のソリオ宝塚は、駅周辺施設の中でも一番通りが多く、昼夜問わず人が行き交う場所である。また宝塚大劇場を訪れる人の多くが駅からこの施設を通り抜け、劇場へと向かう。

しかしオープンから30年が経ち、その立地を以てしても活気のない古びた施設となってしまった。

約200名へのアンケートの結果、宝塚歌劇のファンはこの施設を駅から劇場への通り道として、もしくは決まった飲食店しか利用しない人が大半であり、飲食店以外の店舗やイベントには認知度の低さが見受けられた。

私も宝塚ファンとして同じように不便に思い、この施設に魅力を感じられなくなっていた。

このような背景から、ソリオ宝塚を「通り道」ではなく「人が留まる場所」にしたいと考えた。

そこで、宝塚歌劇のような華やかさをテーマとした新たなソリオ宝塚のプランを提案する。

宝塚大劇場へ向かう道がより高揚感を感じられるものとなり、宝塚に興味を持つきっかけやファンが集う場所の一つとなることを目指している。

審査会賞
(インテリア部門 第3位)

徳田 紗歩
TOKUDA, Saho



音楽の森 音楽家の卵と市民の交流が生み出す憩いの場

Music forest: A relaxation place created by interaction between aspiring musicians and citizens

私は高校時代、吹奏楽部に所属していた。部活動をする中で、練習できる場所が限られることや、気軽に練習や発表ができる場所が少ないと感じていた。そんな学生や一般市民、音楽家の卵が、音楽を楽しみ、触れ合うことができるような空間を、兵庫県立芸術文化センターの南側に隣接する土地に計画した。

木々に囲まれた敷地内にはスタジオ、ミュージアム、ミニホールの3つの棟が配置され、正しく音楽の森というべき空間が存在している。19種のインテリア空間で構成された2階建の「スタジオ棟」、カフェをメインに楽譜ショップ、管理室が入った「音楽ミュージアム棟」、小規模な演奏会が実施できる「ミニホール」を自由に利用することができる。

憧れの大ホールやミニホールで演奏できることを目指して活発的に活動でき、市民の憩いの場になればと考える。



福井 瑞葵
FUKUI, Mizuki